|  |
| --- |
| 開催セミナー |
| 第52回　農楽マッチ勉強会 |
| 日　時 | 2017年5月21日（日）13:30～16:30 | 場　所 | 大阪総合生涯学習センター　第4研修室大阪市北区梅田1-2-2　大阪駅前第2ビル5階 |
| 講　演　者 |
| （株）ファーム・アライアンス・マネジメント 平田　敦氏　（株）LEAD　都倉　貴博氏　八鹿畜産　小田垣縁氏　　　丹波篠山にじいろ園　小澤和文氏 |
| タイトル | 1.グローバルＧＡＰについて2.「夢無きものに成功なし～あなたの夢はなんですか？～」 |
| 内容 | 平田　敦ファーム・アライアンス・マネジメント社は農業分野におけるコンサルタント、営業支援や農業情報のＩＴ化を支援しておられます。今日は2020年のオリンピックでも話題になっている、食材調達基準に適合する国産農産物の供給体制を確立するためにも必要なグローバルＧＡＰについてご説明いただきました。現在では世界118カ国以上・15万件を超える認証件数となっています。全世界農業者の共通のテーマでもある「食の安全リスクの低減」「労働安全」「環境保全」「生態系の維持」の実績を通して、健康で持続的な社会実現に貢献する事を目指しています。　日本では、グローバルＧＡＰを取得している農家や産地はまだ400件しかない（世界では16万件）とのお話から、日本の農業の担い手構造をグローバルGAPの取得を通して「守る」から「育てる」マネジメントへの改善を行い、農業の「経営品質」の向上に繋げていく取り組みについて紹介いただきました。質疑応答では、規模拡大についての対策やJGAPとの認証の違いなどについての質問が出されました。都倉　貴博氏兵庫県加古川市で都市近郊農家として、葉物野菜を生産されています。東京のアパレルーメーカに勤務していて「農業の『の』の字も知らない状態から、ご両親の説得で農家を継ぐことになったそうですが、神戸の農園主との出会いにより農業の基礎から学び、法人化もされて自社栽培を確立されました。就農当初は直売所や市場中心だったそうですが、祖父からの農家継承は新規参入者だと考え、1年弱は小松菜に特化した販売戦略をとり、その後は市場出荷への危機感からレストランや個人宅配などの直接取引へと方向転換されたそうです。現在は他の農家さんがしないような細かい出荷をして差別化をしたり、土壌改良や販売先の新規開拓、単価の高い希少野菜の生産など経営を安定・発展させるための努力をされているそうです。 また、地元野菜農家や東播磨の若手農業者チームとの連携など「農をつなぐ」活動、“東播磨のおくどさん”と連携した「食をつなぐ」活動、加古川農業青年クラブやJA兵庫南壮年部、播MANMA等の交流による「人をつなぐ」活動、GAPへの取り組み・次世代農業者の育成など「夢をつなぐ」活動など精力的な活動の様子について戸倉社長の想いのこもったお話を伺いました。質疑応答では、次世代農業者の育成についてや法人経営のきっかけやメリット、土作りについてなど多岐にわたる質問などで盛り上がりました。 |
| 文責 | 上田 綾子 |